

— 論文要旨 —

表題	プラナリアにおける切断後の光走性
----	------------------

学校名	学校法人大阪医科薬科大学 高槻高等学校		
グループ名	課題研究生物分野 プラナリア班		
	氏名	分担内容	
代表者	堀澤悠夏	飼育・実験・動画解析・データ分析・執筆	
共同研究者	板倉歆奈	飼育・実験・動画解析・データ分析	
共同研究者	若林千乃	飼育・実験・動画解析・データ分析	
共同研究者			
共同研究者			
共同研究者	*必要に応じて、行を追加し	て記載して下さい。	
個人研究	研究者名		
	学年		

< 要旨 >

プラナリアは扁形動物門有棒状体綱三岐腸目に属する生き物の総称で、切断しても再生することで有名である。また、2つの眼点を持ち、負の光走性を示すことが知られている。アメリカツノウズムシを用いた先行研究では、眼点を含む頭部と眼点を含まないヘッドレスに切断したところ、ヘッドレスは切断直後には負の光走性を示さなかったが、眼点の再生とともに負の光走性が回復した。

私たちは日本の高校で広く飼育されているナミウズムシを対象に同様の実験をおこなった。実験ではナミウズムシを頭部、腹部、尾部の3つの部位に分けて切断直後から17日後までの負の光走性を観察した。その結果、眼点が再生しても負の光走性を示さず、全身が再生するとともに負の光走性を示した。このことから、形態的に眼点が再生だけでなく、全身の神経系や筋肉の再生も負の光走性を示すためには重要であることが示唆された。